

家畜・家きんの種類:乳用牛

子牛を産んだ乳用牛の雌牛から、「生乳(せいにゅう)」を搾乳(さくにゅう)し、飲用牛乳やバター、チーズ、ヨーグルトなどの乳製品を生産。

・ 乳用牛が1年間に生産する生乳は、平均で約9,000kg(S40年は現在の半分の約4,300kg)。平均搾乳日数には360日程度。なお、令和6年度の我が国の生乳生産量は737万トン。

注:生産物である生乳は、リットルなどではなくキログラムやトンで数えます。



ホルスタイン種



「種雄牛(しゅゆうぎゅう)」は、雌に交配するための精液を生産するための雄牛。

家畜人工授精(かちくじんこうじゅせい)により、沢山の雌牛と交配できるため、精液販売の専門業者など、限られたところでしか飼養されていない。

写真提供:(一社)全国肉用牛振興基金協会

ジャージー種



写真提供:(公社)中央畜産会

我が国ではホルスタイン種の次に頭数が多いが、その数は約1.2万頭。ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳脂率が高いという特徴がある。

主に岡山県の蒜山(ひるぜん)高原、熊本県の小国(おぐに)などで飼養されている。